

Society 5.0

これからの産学連携のあり方

2019年3月7日

Society 5.0に向けた産学共創のあり方 於 経団連会館5階パールルーム

一般社団法人 日本経済団体連合会
未来産業・技術委員会産学官連携推進部会長
J X T G エネルギー取締役常務執行役員

五十嵐 仁一

- 社会が変化する大きなきっかけとなるのはデジタル革新（デジタル・トランスフォーメーション）である。個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が根本から変わる。
- デジタル技術の使い方によっては格差拡大などの影の部分も生じうる。デジタル革新を利用してどのような社会を創っていきたいのかが重要。

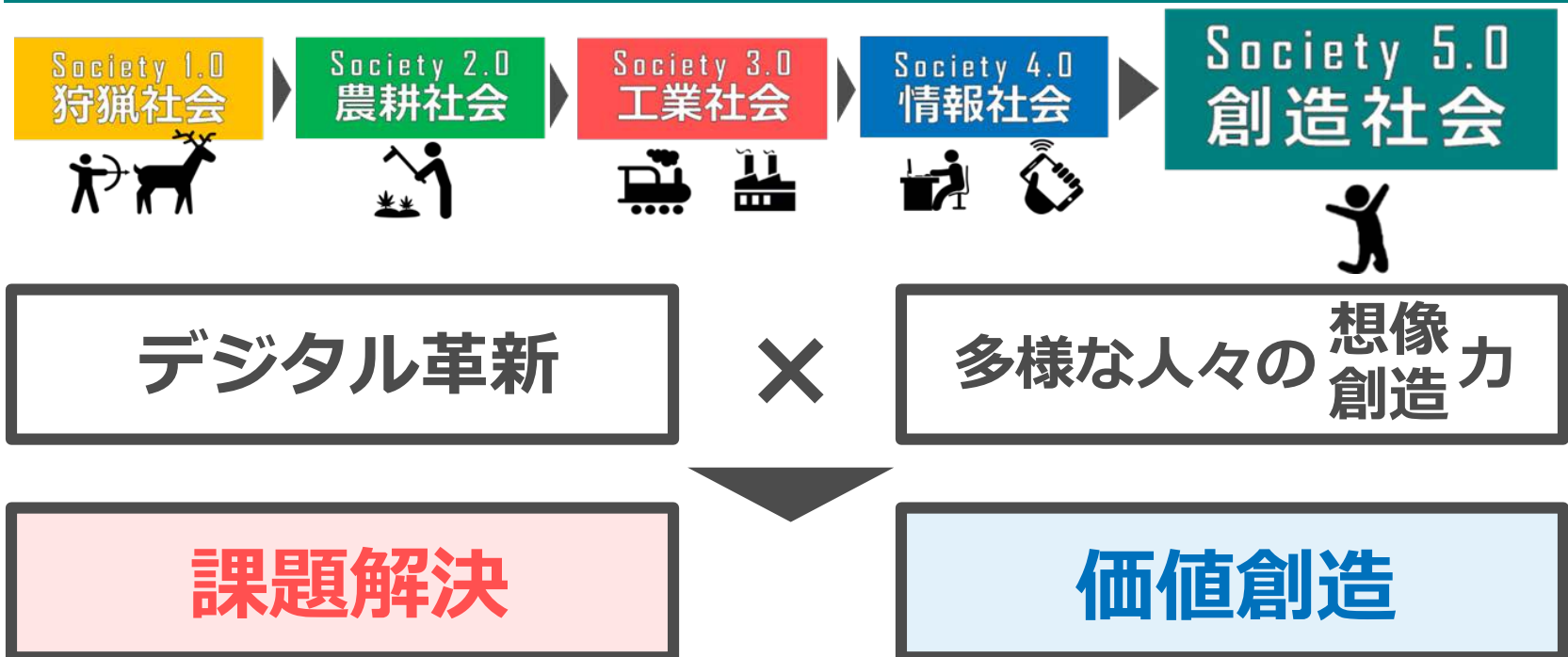
デジタル革新 = デジタル技術とデータの活用が進むことで、個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が大きく変わること。
IoTやAI、ロボット、ブロックチェーン等の技術がデータを核に駆動し、社会を根本から変える。

IoT	あらゆるモノがインターネットに接続され、センサーなどからリアルタイムにデータが収集できるようになる。デジタル革新の対象があらゆるモノ・ヒト・コトに広がる。
AI(人工知能)	AIは適切に設計して運用されれば、非常に複雑な問題も解決できる。人間が行ってきた業務の多くは、AIによって自動化することが可能となる。AIの本質は「能力の流通とコモディティー化」である。
ロボット	AIの能力は、ロボットによってフィジカル空間で発揮される。さまざまなモノが知能を有するようになり、社会のスマート化が進んでいく。
分散台帳技術	ブロックチェーンなど分散台帳技術は、効率的な取引や追跡可能性の向上に大きな影響を与える。信用や信頼の新たな形をもたらす。

Society 5.0は「創造社会」

- デジタル革新を人々の多様な生活や幸せの追求のために活用すべき。
- 今後、人々には世の中を変える「想像力」と「創造力」が必要。
- Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。

Society 5.0



強みを活かし、課題を機会に変える

- 深刻な課題を多く抱える日本は、課題解決先進国となることができる。
- 「Society 5.0 for SDGs」の国際標準化をリードすべき。

散らばる課題

少子化・高齢化、地方衰退、財政悪化、エネルギー問題等

日本の強み発揮

- 社会を急変させた歴史
- 課題を解決する持ち前の**想像力**
- 新しいものを文化や言語に**取り入れて発展させる力**
- 圧倒的な**キャッチアップ力**、学び続ける精神

課題解決主導の 機会

Society 5.0 for



- 「Society 5.0 for SDGs」の世界的な普及
- プラットフォーム化と国際標準化のリード
- 実際のシステム開発と運用

日本が目指すべき姿

- Society 5.0を世界に先駆けて実現するために、日本が目指すべき姿は、デジタル革新を先導し、多様性を内包した、成功のプラットフォーム。多様な背景を持つ人々が日本で成功のきっかけをつかむ。

デジタル革新

×

多様性の内包

AI×データのパワーを
人々が最大限に活用できるよう
変革への体制を整える
(AI-Ready化)

日本のあらゆるところで
多様な背景をもった人々が
社会を変える挑戦を次々に行う
(あらゆる多様性の内包)

成功のプラットフォームとしての日本

多様な人々が日本でさまざまな挑戦を行い、成功のきっかけをつかむことで
日本から新たな価値が次々と創造され、それを通じてSociety 5.0を実現していく

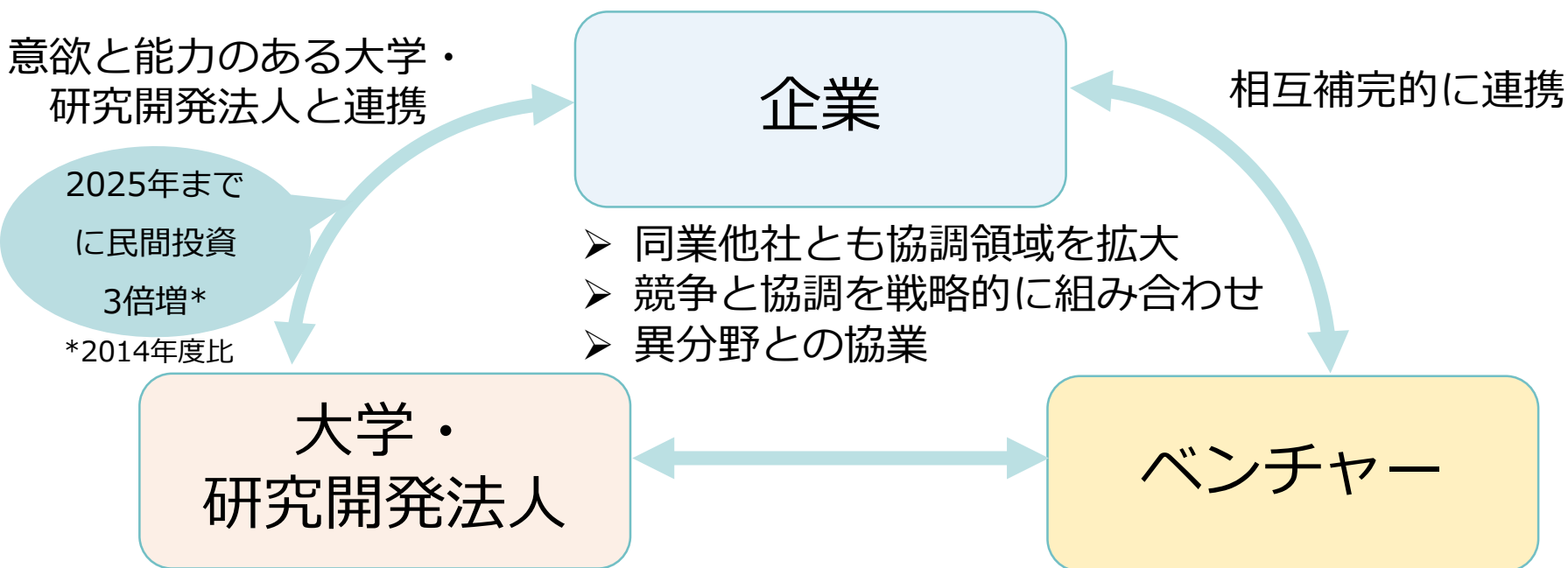
イノベーション・エコシステムの構築

- Society 5.0実現のカギは、ダイバーシティの確保、多様な主体からなるイノベーション・エコシステムの構築。
- オープンイノベーションのパートナーとして知の源泉たる大学に大きな期待

パラダイムシフトへ対応

社会全体の最適化を目指すSociety 5.0の実現

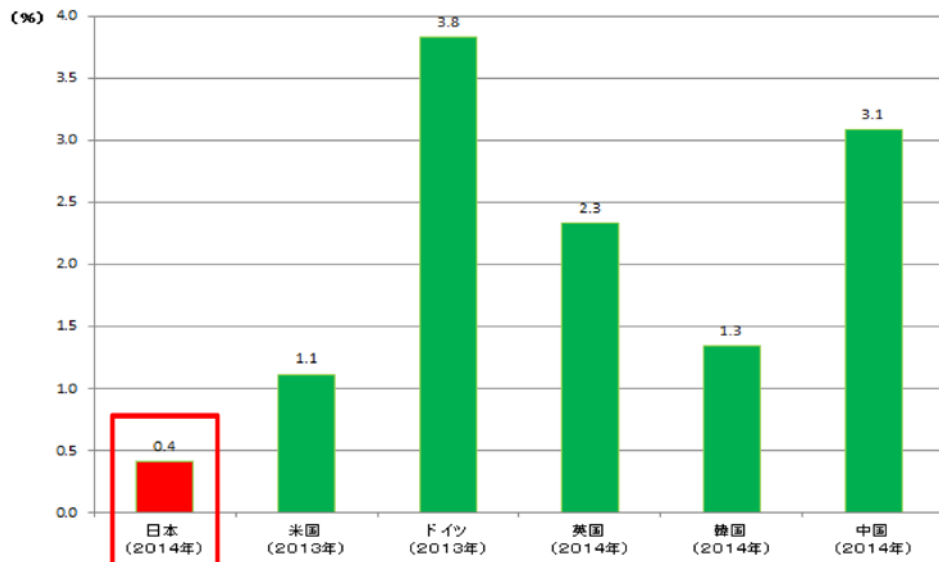
社会のあらゆる主体によるオープンイノベーションのエコシステムが必要



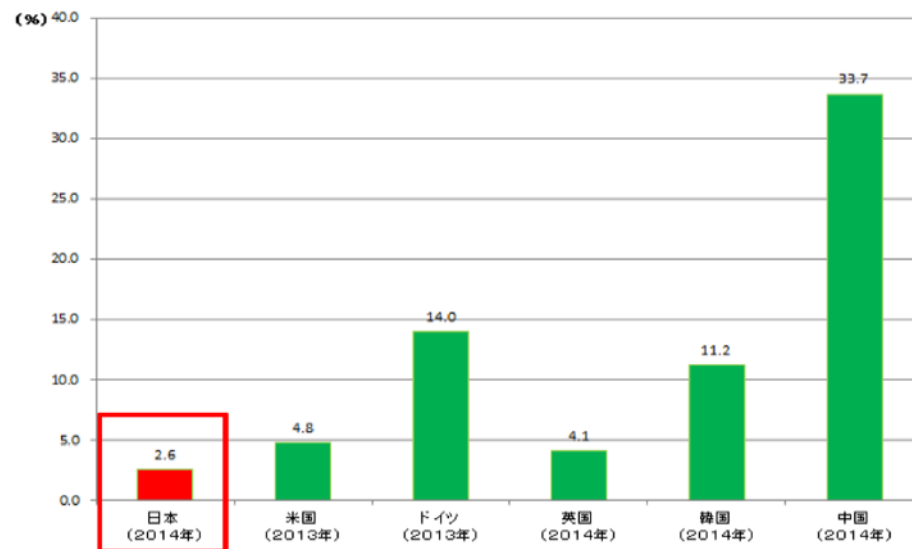
企業から大学への投資割合

- 国際的に見て、わが国の産業界の研究費に占める大学への拠出割合は低水準。
- 同様に、大学の財源に占める産業界からの拠出割合も低水準。

産業界の研究費に占める大学への拠出割合



大学の財源に占める産業界からの拠出割合



出典：OECD Research and Development Statistics/Gross domestic expenditure on R-D by sector of performance and source of funds